

作者プロフィール

柚木 文夫氏

千葉県隊友会会員 習志野支部長 桧町陸幕 平成 2 年退官 1958 年防衛大学卒
元防大山岳部監督 現自衛隊山岳連盟会長

ニッ 箭 山 - 岩 峰 歩 き を 楽 し む -

月山からのニッ箭山(男体山・女体山・湯殿山)



11 月中旬、地元出身の友人に案内されて、いわき・ニッ箭山 (710 ㍎) に出かけた。低山ながら、険しい岩峰で人気の山である。

いわき中央で高速を下り、登山口の根本集落に車を停めた。家々の庭先の枝成りの柿の実が日に映えて美しい。正に秋本番である。

集落の外れには古びた修験堂がある。月山とか湯殿山といった名前の峰々があるところから見ても、ここは東北の出羽三山を模した古くからの山岳修験場らしい。

御神体滝で、形ばかりのミソギをして 11 時出発、御滝沢に沿って月山新道を登った。20 分程でスギ林が雑木林に変わり、アキレス腱の痛くなるような急な登りが始まる。12 時頃、ようやく尾根筋に出ると、いよいよ岩場の登りが始まる。岩盤の一つ一つが大きくて亀裂も見つからず、手がかり



足がかりを探るのに結構神経を使う。

12 時半、月山頂上に到着し大休止。

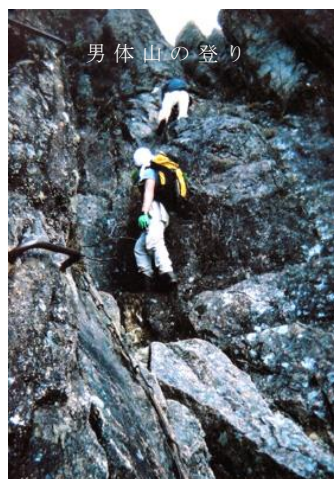
巨岩の積み上がった狭い頂上には石祠があり、殊勝にお賽銭をあげて拝礼したことだった。

頂上から見渡せば、阿武隈の山並みが畳々と連なっているが、山の名前は不勉強でよく分からない。大滝根山だけは山頂の航空自衛隊サイトのレーダードームでそれと確認出来た。

13 時、やおら腰を上げてニッ箭山に向かい尾根道をたどる。13 時 15 分、ニッ箭山頂 (湯殿山) の三角点標に難なく到着した。しかし、この後の修験台、女体山、男体山と



続く稜線伝いが、なかなかの難物である。大きな岩盤の登り降りの連続に、結構緊張させられる。所々にクサリが設けてあるが、支点のないクサリがただぶら下げてあるだけで頼りない。



そして最後の男体山からの下降に、高低差 30 ㍎の大クサリが待っていた。我々の前に大人数のオバサン連の団体が頑張っていて、順番待ちにすっかり時間を取られてしまった。

おかげで根本の駐車場に帰り着いたのが日も翳った 16 時半。ともあれ、手応え十分の岩峰歩きを満喫した一日だった。